

令和8年度第1回高岡市男女平等推進市民委員会会議録（要旨）

【 日 時 】	令和8年6月4日（木） 午後2時15分～午後4時
【 場 所 】	高岡市男女平等推進センター会議室
【 出席者 】	・ 委 員 15人（野口会長、大平副会長、新垣委員、越後委員、杉澤委員、千野委員、田中委員、中村総委員、中村晴委員、灘岡委員、沙魚川委員、畠山委員、林委員、堀井委員、矢竹委員） ・ 高岡市 6人（出町市長、村上生活環境文化部長、徳市男女平等・共同参画課長、寺口男女平等推進センター所長、事務局2名）
【 内 容 】	- 開 会 - 市長あいさつ ・男女が平等に色々な場面で活躍するまちづくりを目指しているが、女性委員がいない審議会等があることや中学校の校長先生に女性が少ないといった現状があり、もっと真剣に取り組む必要があると感じている。 ・本年度は、現行の高岡市男女平等推進プラン等の計画期間が終了を迎えることから、新たな計画を策定する。 ・委員の皆様の活発なご意見を踏まえて、女性が暮らしやすい、女性に選ばれるまちづくりをしていきたい。 - 会長・副会長の選任 - 会長あいさつ ・高岡市の男女平等・共同参画に関する施策、事業の審議について、皆様のご協力をいただきながら務めてまいりたい。 - 諮問 - 議事 ◎ 会長 ・初めに、高岡市男女平等推進プラン（第3次）の策定について、事務局よりご説明いただきたい。 ● 事務局 ・高岡市男女平等推進プラン（第3次）の策定について、資料1により説明 ◎ 会長 ・推進プランの素案作成は、策定部会を設け起草委員により作業を進める。 ・起草委員として、「大平副会長」、「杉澤委員」、「鈴木委員」、「田中委員」、「灘岡委員」、「沙魚川委員」、「畠山委員」、「林委員」にお願いしたい。 ・次に高岡市男女平等推進プラン及び高岡市DV対策基本計画の取組状況、高岡市男女平等・共同参画に関する意識・実態調査結果、高岡市男女平等推進プラン（第3次）の方向性について事務局より一括してご説明いただきたい。

● 事務局

- ・男女平等推進プラン及びDV対策基本計画の取組状況を、資料2、3により説明
- ・高岡市男女平等・共同参画に関する意識・実態調査について、資料4により説明
- ・高岡市男女平等推進プラン（第3次）の方向性について、資料5により説明

意見交換

○ 委員

- ・なかなか男女平等にならないが、男女共同参画について、若い世代の男性は家事・育児をしているように感じる。

○ 委員

- ・資料4、4ページ、高岡市が力を入れるべき施策として、「子育てや高齢者支援の充実」、「働き方の見直し」とあるが、高岡市はその2つの方向性に絞って施策を考えていくということか。

● 事務局

- ・これは意識・実態調査の主な意見を紹介したものである。それぞれ担当課において計画を策定し施策を進めており、こども計画は令和7年度に策定済み、高齢者の計画は現在策定中である。子育て支援に関する指標は現プランの中にもあり、概ね達成されつつある。今後、福祉保健部の関係各課と連携しながらあるべき施策について考えていきたい。

○ 委員

- ・困難な問題を抱える女性への支援に関する法律（女性支援新法）について、県もようやく動き出し、高岡市は次期計画に盛り込んでくれるのはありがたい。私たちの声を聞き取り、県内でトップとなる女性支援ができるような実のある計画を策定してほしい。

○ 委員

- ・男女平等・共同参画はとても広い枠組みがあること、DV被害者が多いことに驚いた。DVに気づいている人は助けを求めている段階だが、10代・20代の若年層で自分でも気づいてない、潜在的なDVで苦しんでいる人も多い。
- ・20～40代では男女が共に家事・育児をするものという意識が浸透しつつあるが、男性の家事・育児等の経験は未だ不足していると思う。男女平等とともに、一人ひとりが価値観を肯定できる高岡市であったら嬉しい。

◎ 会長

- ・机上の理論だけでなく、実際の状況をしっかり見据えたうえで次の計画を作る必要がある。
- ・DV被害者が自立支援する前の段階であるシェルターの部分は、落ち着いてきているのか。

○ 委員

- ・高岡市の相談室は県西部の配偶者暴力相談支援センターであるため、相談が多いの

は当然であり、県の女性相談支援センターにも、年間約 5、6 千件の相談がある。
「DVはない」という時代はもう終わり、人間が持つ暴力性を自覚し、いかにそれをコントロールしていけるかだと思う。DVに関する自立支援は依然として不足しており、高岡市では当団体 1 箇所だが対応しきれないケースが多数ある。当団体も今年から新たな施設を設け女性支援を始めるが、それ以上に社会全体の人がDVへの自覚を持つ必要がある。

◎ 会長

- ・センターの利用者数について、学生のサロン利用により増えたようだが、学生はどのように利用しているのか。

● 事務局

- ・ほとんどは勉強である。パネル展示やサロンの本を見るように声を掛ける等の啓発もしている。図書館等でも勉強できるが、ここの空間を好んで来ている学生もいる。

◎ 会長

- ・ただ単に勉強だけでなく、男女平等推進の取組みにも繋がるとよい。
- ・審議会等の女性委員が少ないことについて、担当部署からは理由や意見等が挙がっているのか。

● 事務局

- ・推薦団体に女性がいらない、専門分野に女性がいらないといった理由等がある。先日の庁議において、市長から各部局長に女性委員がゼロというのはなくすよう指導していただいた。

○ 委員

- ・意識・実態調査結果について、世代によって回答が全然違うと思うので、世代別に取組を考えてはどうか。
- ・弊社は 2030 年度に女性管理職 10%を目標に掲げているが、各企業でも女性活躍推進の取り組みが進められていると思う。市や高岡市内の企業が連携し取組を進めることで、より実態が伴うのではないかな。

◎ 会長

- ・ワーク・ライフ・バランス推進事業所の取組の他に何かあるか。

● 事務局

- ・女性人材バンクがある。取組状況は、令和 7 年度人材申込件数 51 件（R6 年度 41 件）、求人申込件数 16 件（R6 年度 14 件）、マッチング成約数 4 件（R6 年度 5 件）である。取組を進めており、申込件数は増えているが、なかなか成約に結びついていない。

○ 委員

- ・昔は女性に専業主婦を望む男性が多かったが、今は女性に仕事してほしいと思う若い男性が増えているようだ。それに伴い、男性自身も仕事と家事を両立する必要があると感じているようだ。

- 委員
 - ・ 皆さん現実的で、お金の面で余裕を持ちたいと思っている。
- ◎ 会長
 - ・ 社会全体で女性の受け入れ体制が整ってきたので、女性の社会進出も増えている。
- 委員
 - ・ お金に追われることで、地域との繋がりを希薄にし、DV等の問題が見失われがちである。こういった課題が深刻化しつつあるが、AI との共存や男女平等の推進により、解決策が見出される可能性があると思う。若年層は住宅ローンや子育てにより、働き方を変えることができず忙しさから逃れられない現状がある。本来は、生活があって仕事があるというライフ・バランスが望ましい。
- 委員
 - ・ これから次期計画を策定するにあたり、10 年の長いスパンで考えた時に、どのように視点等を決めていけばよいか。現行プランの目標値や基準値があるが、どのようなベースで設定されたのか簡単に教えてほしい。
- 事務局
 - ・ 現行プランの指標は、新高岡市になってから見てもかなり昔からの計画のものが残っているが、多くは未達成の課題の積み残しが繰越されてきたものである。また、社会全体の風潮として課題が解決されておらず、必要な目標であるということで位置づけてきたものがある。今回、次期計画を 10 年という長いスパンで作るが、5 年で一度、事業計画の見直しを行う予定である。
- 委員
 - ・ 平成 19 年頃（第 1 次計画策定時）の緩やかな社会の流れから、近年は加速的に変化しており、10 年先、社会全体が大きく変わっているかもしれない。もっと未来を見据えたところから、バックキャスティングのような考え方で、過去のを積み上げていくのではなく、「こういった社会を目指していきたい」というのを明確にし、これからのことを大切にしないといけないと思う。
 - ・ ワーク・ライフ・バランス推進事業所の認定数の目標数値（30 事業所）が未達成という点について、「女性を入れなければならないから入れる」というのではなく、「女性の視点を取り入れることが、より効果的な事業につながる」ということを伝え、企業が自社をより良くするために女性を登用するといった視点が社会全体に広がっていけば良いと思う。
- ◎ 会長
 - ・ ここ数年で社会環境が変わってきて、世代交代により考え方も変わってきた。単に前の計画を更新、女性の数を増やすのではなく、適材適所の考え方で、将来を見据えて次計画の策定をお願いしたい。
- 委員
 - ・ DVについて、実態や発端等が世代によって異なると考えられるため、世代ごとに対策等を立てて計画を作ったら良いと思う。

- ・ 昨今、AI のサポートが向上し、信頼性の高い情報が入手できるようになったことで、経験が無くても活躍できる場が広がっていくと思う。しかし、IT に不慣れな女性もいるので IT に関する講座等を開催し、IT 社会に対応できるスキルを身につけられるようにしてほしい。

◎ 会長

- ・ だいぶ女性防災士が増えてきたと聞いていたが、最近の状況はどうか。

○ 委員

- ・ 市危機管理課でも防災士の育成に力を入れ、女性防災士は増えてきている。また近年、災害も多くなっているので、資料 5 にあるように、国や県の計画にも防災の項目が盛り込まれている。今後は、女性防災士を増やす段階から一歩進んで、その資格を持った人が活躍できるよう、次期計画には男女共同参画の視点に立った具体的な防災対策を取り入れてほしい。

○ 委員

- ・ 次期計画を考えるにあたり、16 の指標を単に焼き直すのではなく、時代の変化を踏まえ、指標の上にある目的は何かといった視点で取り組むと、指標の入れ替えも違った視点で行えるのではないかと。審議会に女性委員を入れるのは必須だと思うが、指標を人数や講座の回数で縛るのは息苦しい気がする。選択肢を与えられていることが本当の公平だと思うので、結果ではなく機会の公平・平等で積み立てて、上位の目的に従って、指標や基本目標の切り口を時代に合わせて変えていけばいいと思う。
- ・ 計画の中で考えている視点は、あらゆる分野に繋がることだが、男女平等・共同参画課から全市的に総合計画等の中に展開され、取組になっていくのか。また、次期計画策定に向けた私たちの役目は何か。

◎ 会長

- ・ 参考資料に担当課が記載されているので、市の各課の協力をいただいて策定を進めていくという認識でよいか。

● 事務局

- ・ 男女平等推進庁内連絡会議で、市長、副市長、各部局長に現計画の取組状況や次期計画の策定方針等について報告し、意見をいただいている。各部局において男女平等・共同参画の視点が重要であることから、今後も庁内連絡会議等を通じて全庁的に伝えていく。
- ・ 指標について、これまでの焼き直しだけでなく、新たな視点を踏まえたものも検討していく必要がある。私見だが、これまで利用者数や参加者数などアウトプットな指標があったが、人口減少が進む中、その数を追求することには少し疑問もある。今後は満足度や理解度等を指標として検討していく必要があると思っている。
- ・ 過去だけでなく未来もということについて、資料 5 に国が最近策定した第 6 次男女共同参画計画の体系についてまとめてある。また、今後予想される環境の変化として、人口減少や世帯構成の変化、ビジネスケアラの増加、AI の利活用におけ

る恩恵とリスクなどが挙げられる。国の方針や環境の変化等を踏まえ、高岡市が目指すべき姿を描いていきたい。

○ 委員

- ・冒頭で、市長から女性校長の数に関する話があったが、教頭以上の管理職で見ると、中学校においても小学校と同程度だと思う。
- ・児童・生徒への対応については、男女平等が当たり前となっている。例えば、男女混合の名簿作成、制服の選択制の導入、技術・家庭科、体育などの授業も男女平等にしている。子どもたちは男女平等が当たり前という感じで過ごしているが、大人になると、「男性だから、女性だから」という世界に染まってしまう気がする。
- ・指導者側については、昔は休暇を取りにくい風潮があったかもしれないが、働き方改革により、現在はお互いにフォローし合える環境になり、男性教員も育児休業を取得しやすくなってきている。実際に男性教員も育休を取得しており、組織・チームで子どもたちを育てていくという意識を持って働いている。

◎ 会長

- ・子どもの頃から当たり前のように男女平等であれば、彼らが大人になる頃には、男女平等が当たり前という時代がもうすぐ来るかもしれない。

● 事務局

- ・本日欠席の委員から意見をいただいているので、紹介する。
- ・委員からの意見を配付、回答を説明

7 閉 会

〔以 上〕